

■折口信夫(釈迦空) 国文学者、民俗学者、歌人、詩人。独自の世界“折口学”を構築し、一流の詩歌作品を遺した。

おりぐちしのぶ

国民之友始・1887＝ 大阪府木津村(現大阪市浪速区)生れ。

帝国憲法発布1889＝ 2歳：

帝国議会始・1890＝ 3歳：木津幼稚園。百人一首暗誦。

大本教・・・1892＝ 5歳：木津小学校に入学。

日清戦争始・1894＝ 7歳：

在学中、東京に遊学した叔母の影響を受け、短歌や古典に親しむ。

白馬会・・・1896＝ 9歳：育英高等小学校に入学。4ヶの道を通学。
在学中、国学者に入門していた姉の影響を受ける。

Bushidou・・・1899＝12歳：府立五中に入學し、後の国学院教授三矢重松と面識。在学中、兄の影響で短歌を投稿。「言海」や「万葉集」を精読。精神修養を目的とした琴声会に入会し、以後度々演説。

教科書疑獄・1902＝15歳：父が死去。文学会で演説。短歌の会に加入。成績著しく下降。何度か自殺を企てる。

1年遅れて、

日露戦争終・1905＝18歳：卒業、新設の国学院大学予科に入学。三矢重松と再会、以後恩顧を受ける。藤無染(男)と同居。

満鉄発足・・・1906＝19歳：神道の教義団体に加わり、度々街頭布教。

韓国反日暴動1907＝20歳：国学院大学本科に進み、服部躬治を訪ねる。金田一京助らと「辞林」の編纂を手伝う。

伊藤博文暗殺1909＝22歳：*「和歌批判の範疇」発表。懸賞論文に友人の名を借りて応募し、一等。根岸短歌会に出席、歌人を知る。

韓国併合・・・1910＝23歳：言語の二面性を論じた卒論「言語情調論」をもって、国学院大学国文科を卒業し、帰阪。

大逆事件判決1911＝24歳：府立今宮中学校の嘱託教員となる。_京都の根岸短歌会に出席するとともに、釈迦空の号を用い始める。

明治天皇没・・・1912＝25歳：生徒二人を伴い、志摩・熊野の旅し、その後の契機となる。短歌作品集「安乗帖」をまとめる。

大正政変・・・1913＝26歳：小説「口ぶえ」執筆。*柳田国男主宰「郷土研究」に投稿し知遇を得て以来、その日本民俗学に触発された。

第一次大戦始1914＝27歳：教え子たちの卒業に合わせて退職し、共に上京して同宿。

21ヶ条要求・1915＝28歳：神経衰弱になり、生活も困窮するが、_柳田国男の郷土会例会に出席するようになる。

民本主義・・・1916＝29歳：友人の勧めにより「口語万葉集」を著す。

ロシア革命・1917＝30歳：郁文館中学校教員となるが、まもなく退職。_「アララギ」同人になり、選歌欄を担当。

本格政党内閣1918＝31歳：母が死去。_雑誌「土俗と伝説」を編集発行。

べつしな条約・1919＝32歳：国学院大学の臨時代理講師となる。「万葉辞典集」刊行。会津、鹿儿島を旅し、以後、全国各地を旅行。

護憲三派圧勝1924＝37歳：_「国学院雑誌」に「批が国へ・常世へ」を発表

原敬首相暗殺1921＝34歳：南西諸島や壱岐の旅は“ひそけさ”を基調とする釈空短歌を確立させた。母校国学院大学の教授。

水平社結成・1922＝35歳：国学院の学生らと雑誌「白鳥」創刊。

関東大震災・1923＝36歳：再び、沖縄旅行。「琉球の宗教」執筆。三矢重松が死去。

憲法三派圧勝1924＝37歳：_「アララギ」と別れ、北原白秋らと「日光」同人になる一方、“憑依”を起源とみなす「国文学の発生」を発表。

治安維持法・1925＝38歳：_処女歌集「海やまのあひだ」を刊行。予科生の間で「鳥船社」を結成。

日本時代始・1926＝39歳：「歌の円寂する時」「短歌本質成立の時代」、

金融恐慌・・・1927＝40歳：「女房文学から隠者文学へ」「水の女」、

共産党事件・1928＝41歳：慶応義塾大学教授となり、芸能史を担当。鈴木金太郎、藤井春洋と同居。*民俗学的国文学といわれる“折口学”を展開する「民俗芸術」を創刊し「翁の発生」を発表。

世界恐慌・・・1929＝42歳：_主著「古代研究」の“民俗学篇Ⅰ”刊行。雑誌「民俗学」創刊。

海軍軍縮条約1930＝43歳：「古代研究」の“国文学篇”“民俗学篇Ⅱ”を刊行。第二歌集「春のことぶれ」刊行。

満州事変・・・1931＝44歳：

五一五事件・1932＝45歳：_“国文学篇”のなかの一部分をなす「万葉集」の研究によって文学博士。

帝人疑獄事件1934＝47歳：鈴木金太郎が転勤になり、20年に及ぶ同居生活を終える。以後は春洋と生活。

日中戦争始・1937＝50歳：

健保+総動員 1938＝51歳：長編海洋叙事詩「月しらの旗」発表。_特異な小説「死者の書」の執筆に着手。

第二次大戦始1939＝52歳：箱根の山荘が完成。隠居の生活に入る。

日米開戦・・・1941＝54歳：「橘曙覧評伝」刊行。

・・・1942＝55歳：戦争歌集「天地に宣る」刊行。

創価学会検挙1943＝56歳：春洋が応召される。_「死者の書」を刊行。これは、学問の創作化であるとともに、信夫の同性への愛の苦しみ、悲しさもひそかに込められているといわれる。

年金+総武装 1944＝57歳：春洋を嗣養子として入籍するが、

敗戦・・・1945＝58歳：硫黄島でうしなう悲傷を歌った「倭をぐな」(死後出版、1955)。

新憲法公布・1946＝59歳：春洋と共著の歌集「山の端」。

新憲法施行・1947＝60歳：岡野弘彦との同居始まる(没するまで)。_詩集「古代感愛集」刊行(翌年芸術院賞受賞)。

極東裁判判決・1948＝61歳：歌集「水の上」「遠やまひこ」刊行。第一回日本学術会議会員に選ばれる。

朝鮮戦争始・1950＝63歳：

独立回復・・・1951＝64歳：

メテ-事件・1952＝65歳：「日本古代抒情詩集」「民族史観における他界観念」に続いて、

TV放送始・・・1953＝66歳：「自歌自註」を口述するうち、胃がんににより_没した。

教員生活のあいだ、信夫は身を投げうって多くの教え子を育てたが、生涯独身だったのは同性愛的関係でもあったからといわれる。手がけた領域は多方面にわたって、そのいずれも独創的な内容を持ち、後に“折口学”と世間から称されるようになった。